編　集　後　記

第17号にも12編の労作が寄せられました。本号の際立った特徴として、６月に執筆を申し出られた諸氏が漏れなく原稿を仕上げて誌面の作成に参加して下さったこと、欧文原稿が皆無だったこと、人文系の論攷が全体の３分の２を占め、論題の分布という観点からするとバランスに欠ける憾みがあること、の３点が挙げられましょう。

年報は、私どもにとり、その時々の研究・成果を自由に発表する恰好の場であるとともに、本学専任教員の研究者集団としての現況の一端をまとまった形で学外の読者に伝える唯一の媒体でもあります。その点から申せば、小人数ながら幅広く各領域にわたって専門家を擁する放送大学の紀要として、上記第３点は機能上、問題を残すと言えるかもしれません。これが今年かぎりの一過性の現象であることを願うのですが。

専門誌への投稿、著書の公刊といった学外での活動もさることながら、私ども一度は在職中、年報に寄稿するのを慣わしとしたいもの、これは自戒の言でもあります。

平成12年３月

放送大学研究年報編集委員会

委員長　伊藤貞夫

委　員　渡邉　融・太田裕彦・六本佳平
齋藤正章・野山嘉正・隈部正博

放送大学研究年報　第17号　平成11年

平成12年３月26日　印刷
平成12年３月31日　発行

編集兼発行者　放　送　大　学
〒261-8586　千葉市美浜区若葉２丁目11番地
電話　043-276-5111（代表）
印　刷　者　高山印刷株式会社
〒101-0032　東京都千代田区岩本町1-11-5